

事業推進の心 仮設労働安全新生プラン
(AESS) 陽のあたる安全文化の創造
もうよやう ヒューマンエラーの他人事
情こころ 安全意識を身にならねば
ぬきやう 安心して働ける 心豊かな仲間

ACCESS新聞
Alliance Cooperation of Construction Equipment & Scaffolding for Safety

Vol.80

編集・発行人 照井利明
発行所 東京都中央区日本橋小伝馬町15-18(日本橋5ビル5F)
電話 03-5561-0001
FAX 03-5561-0002
Eメール info@access-nippo.com

「いつまでにつくる道路行政」へと転換
スピード感を持って効果的整備



国土交通省道路局長 宮田 年耕氏

道路特定財源の見直しなど道路行政のさまざまな課題に取り組んでいる国土交通省道路局長、宮田年耕氏。日本に於いてこれからの5年、10年が最も重要な時期と指摘。新設だけでなく維持更新も長寿化にも対応する必要性があることを強調。全国仮設安全事業協同組合の小野辰雄理事長が宮田局長を訪ね、道路整備の今後の方向、施工の安全確保を幅広くテーマについて対談した。

道路行政の格差は正
地域実態を的確に反映

道路特定財源の見直しなど道路行政のさまざまな課題に取り組んでいる国土交通省道路局長、宮田年耕氏。日本に於いてこれからの5年、10年が最も重要な時期と指摘。新設だけでなく維持更新も長寿化にも対応する必要性があることを強調。全国仮設安全事業協同組合の小野辰雄理事長が宮田局長を訪ね、道路整備の今後の方向、施工の安全確保を幅広くテーマについて対談した。

小野 今年度の道路行政の重点事項からすると、おっしゃった通りだと思います。国土交通省道路局長の御見解について、昨年12月8日に「道路特定財源の見直しに関する見直し」が閣議決定され、方向性が決まりました。
主な内容は、①国に必要とする道路整備は計画的に進めること、②地方のニーズにも対応し、平成19年度中に中期計画を策定すること、③平成20年度以降も現行税率を維持すること、④道路特定財源として自動的に行われる道路整備に充てられる資金の引き下げ、既設高速道路ネットワークの効率的活用

宮田 全国的には病院まで1時間以内で時間かかる地域が多々残っています。入院されたお母さんの看病のために同じ市内なのに、2時間離れた病院の近くにはバスを降りて歩いてはならないという現実にはあるのです。また、緊急に運ばなければならない患者の搬送時間差が生死を分けることにもつながります。ネットワークの整備は生命にかかわる基礎的な問題だと感じています。

建設産業の最重要課題
①労働安全の確立
②職人の地位向上
将来展望に不可欠

建設産業の最重要課題として、労働安全の確立と職人の地位向上が挙げられています。労働安全は、建設現場での事故防止と関係が深く、職人の地位向上は、建設現場の生産性向上と関係が深く、どちらも建設産業の発展に不可欠な要素です。

建設現場での労働安全を確保するには、労働安全対策を確立することが重要です。また、職人の地位向上を図るためには、労働者の権利を保護し、労働環境を改善することが必要です。

「働きやすい安心感のある足場」が標準仕様
今回、「自治体の建設関係者」に「働きやすい安心感のある足場」が標準仕様として採用されることになりました。本企画は各地方自治体の建設関係者部長に当組合の支部長・支所長がインタビューをします。テーマは、自治体の建設事業、部長と自治体の安全方針、当組合への提案です。第一回は静岡県古川市土木部長兼建設部長の古川博一氏にインタビューを行いました。

古川 平成17年度から「手すり先行工法」に基づいた「働きやすい安心感のある足場」が標準仕様として採用されています。これは、足場の安全性を確保し、作業員の手すりや足場を安全に使用できるようにするためのものです。

古川 アクセスでは、県内でも「手すり先行工法」の普及を促すために、足場の安全性を確保し、作業員の手すりや足場を安全に使用できるようにするための取り組みを行っています。

古川 アクセスで特に力を入れているのは、チェンリスを使った仮設安全設備です。これは、足場の安全性を確保し、作業員の手すりや足場を安全に使用できるようにするためのものです。

第7回通常総会開催
行政機関からも多数の来賓
平成19年度仮設安全監理者特別講習会日程
足場、型枠支保工、仮設整備・検取などの安全点検の資格取得を目的とした「仮設安全監理者特別講習会」は、各支部で開催しております。

建設関係資格取得マニュアルに掲載
足場の安全性による分類
レベルAの足場、レベルBの足場、レベルCの足場
足場の概要、安全性の評価、脚注